

つなぐ

ふるさと宇和島／南予

夏号
2021 No.15

ご自由にお取りください



特集
1

津島岩松 小西本家離れ座敷
「色ガラスの家」再生

特集
2

愛媛県立宇和島水産高等学校
フィッシュガールの挑戦

インタビュー NPO法人うわじまグランマ 代表理事 松島 陽子

C o n t e n t s

- 01 エッセイ 「夏の思い出」 ローゼン 千津
- 02 インタビュー NPO法人うわじまグランマ 代表理事 松島 陽子
「今、私たちにできること。」
- 04 撮り歩きなんよ「百日紅と宇和島城」 写真家 北濱 一男
- 05 **特集 1** 小西本家 離れ座敷「色ガラスの家」再生
 - 06 再生された小さな迎賓館 岡村浩之
 - 08 豪商 小西家の歩み 松田厚子
 - 10 小西本家の品々から繋がる物語
 - 12 岩松守ろう会の取り組み
- 13 ツナグ昭和館 内港慕情 一渡し船のある風景ー 田部 司
- 14 **特集 2** 愛媛県立宇和島水産高等学校「フィッシュガールの挑戦」
- 19

うわしん若手経営塾OB
若だんな・女将④

 宇和海真珠 株式会社 専務取締役 松本 哲哉
- 20 鉄女 やましたあやこ& 鉄道カメラマン つぼうちまさみ
- 24 ショートショート 予土のみじかな物語「空回り」 田丸 雅智
- 25 南予の祭り歳時記「節安の花とび踊り(鬼北町)」 愛媛県歴史文化博物館 専門学芸員 大本 敬久
- 26 新型コロナウイルス感染症のワクチン接種 2 沖内科クリニック 副院長 沖 良隆
- 27 腸活中です！ 広島修道大学 教授 藤井 文子



表紙 / 「ハワイアンうしおに」
作 / ありま三なこ

プロフィール

1987年生まれ、愛媛県宇和島市出身。
子供の頃から絵を描くことが好きで、大学の卒業制作で、しかけ絵本を作り、それから絵本に興味を持つ。2016年第8回 be 絵本大賞受賞、絵本作家デビューを果たす。
現在は個展やイベントへの出品等で活動中。



大野ヶ原のササユリ (撮影/北濱一男)



写真提供/北村徹写真事務所



撮影/坪内政美

つなぐ夏号 No.15

〒798-0041 宇和島市本町追手 2-8-21
0895-23-7000

年 4 回発行 (季刊誌)

配布先 / 宇和島信用金庫各営業店ほか
発行 / 宇和島信用金庫

本誌掲載内容の無断転載を禁じます

皆さんこんにちは。私には忘れがたい夏の思い出が二つあります。

一つは、私と姉の夏井いつきが生まれ育った内海村（現在の愛南町）の夏の風物詩、烏賊釣^{いかっ}り船の思い出。実は、「烏賊」だけでは俳句の季語にならないんです。「花烏賊^{はないか}」は春の季語、「烏賊釣^{いかっ}り」は夏の季語、「烏賊干す^{いかほ}」は秋の季語。旬の物を美味しく頂く日本人の知恵がそのまま季語になったのですね。

小さな入り江の海端に曾祖父が郵便局を建て、代々局長を勤めていました。祖父も父も揃って釣り好き。私の姉も釣り大好き。夕方郵便局を退^ひけた父と、いそいそと釣りに行っていましたね。祖母と私は船酔い磯酔いをする性質で、釣りは苦手。叔母と名コンビで郵便局の窓口の人気者だった母は、夜は電話交換手の夜勤をしていました。私達姉妹は、母の足元に小さな布団を敷き並べ、電話の掛かっている時、母にお話をして貰います。「二かけ二かけて三かけて、四かけて五かけて橋をかけ」で始まり、確か西郷隆盛の娘が墓参りに行き、「お墓の前には魂がふうわりふわりとジャンケンポン」とジャンケンをする数え歌が楽しみです。夜が更けると電話は鳴らず、姉は寝つきがよく、母も横になってうとうと。静まり返った入り江に集魚灯の青い光が揺れ、烏

夏の思い出

ローゼン千津



賊釣^{いかっ}り無縁が聞こえてきます。昔は鵜飼のように舟に漁り火を焚いて烏賊^{いか}を集めたそうです。いつしか私も眠りに落ち、翌朝はパジャマのままラジオ体操へ走って行きました。

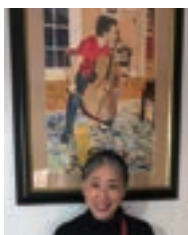
今でも深夜ラジオを聞くと、夏の夜のむつとする黒潮の香と青い灯が胸に蘇ります。私の娘達を連れて里帰りの夏休みにも、パジャマのまま真珠筏の先で糸を垂れ、烏賊釣^{いかっ}りをした楽しい思い出があります。

数へ唄^{うた}烏賊釣^{いかっ}り船の灯る頃 朗善千津

続いては珍しい夏の季語、「白夜^{びゃくや}」の思い出です。私が初めて白夜を見たのは、アラスカのシトカ島。昔は日本の製紙工場があり、シトカ富士と呼ばれた山があります。夫のニックはシトカ音楽祭の創立メンバーで、結婚した翌年初めて同行しました。島に着いたのは夜八時でしたが、午後三時の明るさ。青い太陽の射す白い砂浜を歩き、漁師小屋に集って開会の宴。両手に余るアラスカキングサーモンに塩を厚くまぶします。砂を掘った穴に焼石を並べ鮭を置き、また焼石で覆い砂で埋めると、子供達が花を摘んでお墓のように撒き散らす。焼き上がるまで、貝や海老のバーベキューに白ワインで乾

杯。焼き上がると塩の殻を外し、脂の乗ったキングサーモンの赤身と白身をお腹一杯頂きます。日本のお話をせがまれた私は、「上を向いて歩こう」と「一かけ二かけて」を歌いました。ジャンケンが世界中の子供達に喜ばれます。翌日から、緑滴る島の至る所でチェロやバイオリンやピアノのコンサートが催され、子供達も張り切って参加するのです。

数へ唄^{うた}白夜の砂に花を撒き 朗善千津



ローゼン千津 ろうぜんちづ プロフィール

(株)夏井&カンパニー・ライター。俳号朗善千津。姉夏井いつきの元で俳句を始める。いつき組組員。藍生俳句会会員。藍生新人賞。俳都松山の初代「はいくガイド」メンバー。チャイコフスキー国際音楽コンクール金メダルチェリストの夫ナサニエル・ローゼンの付き人として世界を旅する。現在は山中湖村に住み、富士山を詠む。夏井いつきと共著『寝る前に読む一句、二句。-クスリと笑える、17音の物語』(株式会社ワニブックス)の第二弾が近日発売。

ナサニエル・ローゼン公式ウェブサイト <https://nathanielrosen.net/>
ミセス・ローゼンの富士日記 <https://blog.goo.ne.jp/msgecko>

今、私たちにできること。

NPO法人うわじまグランマ 代表理事 << MATSUSHIMA YOKO

松島陽子

2018年7月の西日本豪雨災害以降、宇和島市を中心に精力的にボランティア活動を展開しているNPO法人「U-grandma Japan（うわじまグランマ）」以降「グランマ」代表理事の松島陽子さんにお話を伺うため、宇和島市榎形町にある「ともえの里（ともえは、松島さんのお母さまの名前）」を訪ねた。

現在、グランマの取組は災害支援はもとより「子ども食堂」「フードバンク」「フードドライブ」「食品ロス」「川や海の清掃」など多岐に及んでいる。また、これらにSDGs（持続可能な開発のための目標）の視点を取り入れ、人と人をつなぎ、市民・NPO・行政・企業等とともに宇和島から日本中へ、そして世界へとつながりを紡ぐネットワーク構築を目指し活動している。

彼女が地域貢献に興味を持つようになったのは、長年、PTAや地域貢献活動をし、一時期、里親もやっていた母の存在が大きかったという。

そして自身も母となり、PTA活動が続ける中、自分の周りには存在していないと思っていた育児放棄などの問題が自分の校区内に存在していたことを知って大きな衝撃を受けた。このことで、かつて、母が、『親のい

ない子どもたちの帰ってくる場所をつくりたい』と口にしていたの思い出し、それを実現させたいと強く思うようになっていった。

そして、転機は、平成29（2017）年度、宇和島市PTA連合会々長をしている時だった。それまで同会が実施していた、子どもたちを東日本大震災の被災地域に派遣する活動から、災害に強い地域づくりを目指す活動として、子どもたちと一緒に防災士資格の取得を目指したり、防災キャンプの実施という、より実践的な活動を体験したことだった。

中でも、防災キャンプは、ライフラインをシャットアウトし、被災後の生活環境の厳しさを身をもって体験した。そして、南予文化会館に釜石市宝来館の女将、岩崎昭子さんを招いた講演会では、『自分の命は自分で守る』という言葉に感銘を受け、それまで以上に防災、減災への取組の重要性を痛感した。

そして翌年、PTA活動も一区切りつき、やりたかった「子ども食堂」を立ち上げようと仲間と倉庫を片づけ、不用品処分のフリーマーケットを開催した一週間後の7月7日、「平成30年7月豪雨災害」が発生し、吉田町では13名の尊い命が奪われた。発災時、東京にいたが、宇和島に向かう途中、仲間からの支援物資を

受取り帰路を急いだ。

宇和島では、すでにいくつかのグループが動いていて、自分たちも今やるべきは災害支援だと、炊き出しなどの支援に奔走した。

「たまたま、子ども食堂開設の準備をすすめていたという事もあります。が、仲間がいなかったら何も出来ていなかったと思います」

そして、長年PTA活動をやっていたことから、行政から「炊き出しのコーディネートをやってもらえないか」と要請があり、まず、仲間5人と団体を立ち上げた。そして、1年後、グランマが立ち上がる。

法人化によって県内の情報共有会議にも出席する機会を得、県内外の大きな繋がりができ、支援に大きな幅ができた。その後も被災地のフェーズ（局面）にあわせた支援を続けていき、気が付けば2年近くが経っていた。

現在は、榎形町にある拠点を中心に幅広い活動を展開するグランマだが、今後について聞くと――

「西日本豪雨災害の支援に走り回った2年ほどは、仕事はつらかった。駆け回りでしたが、今はコロナ禍の影響もあって、自分たちの本業と上手く折り合いをつけながら活動を続けていければ、と思っています。そして、依然、地域を取り巻く環境は

混沌としています。幸い私たちに学習支援や相談場所としての拠点がありません。今後も常に『自分たちに出来る事は何か？』を自問しながら、支援を必要とする人の居場所づくりを実践していきたいと思っています」

グランマのホームページには、『宇和島で生まれて良かった、これからここで住み続けたい』と誇れるまちづくりという一文があるが、それに必要なのは、私たちの小さな一歩ではないだろうか。

あなたに合った支援の方法

- ①グランマ会員になって支援する
- ②自由な金額で寄付をする

詳しくはホームページをご覧ください



Facebook



<http://u-grandma.jp/about/>



<https://www.facebook.com/u.grandma/>



(写真上) グランマの主要メンバー。右から代表理事の松島陽子さん。副代表理事の折原理恵さん。理事の谷本友子さん。(写真下右) スーパーや個人から集められた食品などは段ボールに入れられ必要とする方々に配られていく。(写真下中) 食品などが入った段ボールを笑顔で手渡す松島さん。(写真下左) 仕分け作業をするメンバー



プロフィール／ 1965年4月生まれ 宇和島市在住 東海大学短期大学部 食物栄養科卒業
 株式会社 ひめ美じん（代表取締役）株式会社 コバヤ（取締役） 特定非営利活動法人 U.grandmaJapan（代表理事）
 結婚後、県外生活を経、Uターンして母の会社、株式会社コバヤに入社。4人の子供を授かり、子育てと仕事にと毎日忙しく過ごす中、PTA活動に携わることで他業種の方々から沢山の事を学ぶ。現在は、孫も4人になり、夫婦2人でワクワクを探し楽しみ中。
 PTA 経歴／愛媛県 PTA 連合会（副会長）宇和島市 PTA 連合会（会長）宇和島東高等学校（会長）宇和島市立城南中学校（会長）宇和島市立鶴島小学校（副会長）

撮り歩きなんよ

北濱一男が撮りためた南予の風景



リゅうげ りゅうげざんとうかくじ
龍華（龍華山等覚寺の愛称）の前を左に入り墓地の横の小道を100mほど歩くと選仏寺の墓地に出る。等覚寺と選仏寺の間にあるのが潮音寺だ。そこから少し傾いた石段を上がると、かんらんかんらと笑っているような真っ赤なサルスベリの花が迎えてくれる。そして、本堂に一礼して振り向くと、サルスベリの向こうに宇和島城の白い天守が青空に浮いているように見えた。子どもの頃、潮音寺に同級生がいたので何度か遊びに来たことがあったが、サルスベリがあったかどうかは覚えていない。 潮音寺より8月22日 撮影

宇和島城と花火

新型コロナウイルスの影響で、昨年は夏祭りが中止になり花火も上らず寂しい夏でした。今年も変異株の猛威で中止になってしまうのかな・・・ 愛宕山展望台より7月23日 撮影



北濱 一男 写真家

1945年生まれ 宇和島市在住 学生時代からカメラをはじめるが、本格的な写真歴は約20年。現在は、奈良県明日香の写真家 上山 好庸氏に師事し毎月奈良へ通う。「撮り歩きなんよ」（ブログ）<http://uwatu.blog135.fc2.com/>

さるすべり 百日紅と宇和島城

ちようおんじ
無住になって、もうかなりの年月が経つ臨済宗妙心寺派の潮音寺の境内に、大きなサルスベリがある。真夏に咲くサルスベリは、猿も滑って登れないほど幹肌がすべすべしているので「猿滑」と書くこともある（実際は簡単に登ってしまうそうだが）。また、花が咲いてる期間（梅雨～初秋）が長いので「百日紅」とも書く（諸説あり）。真夏になると、じっとしていても暑くてたまらないのに、暑苦しいクマゼミの鳴き声を聞きながら、自宅からほど近い潮音寺にカメラを持って出かける。

小西本家
離れ座敷

「色ガラスの家」再生

かつて、この「色ガラスの家」に客人があると、

ガラスごしの明かりが、美しく岩松川を照らしたことだろう。

津島町岩松では、昔から「色ガラスの家」と呼ばれ親しまれてきた旧小西本家の離れ座敷が
ワールド・モニュメント財団(WMF)から資金援助を受け、この程、改修が完了した。

本号では、改修された建物や小西本家の歴史について紹介する。

(写真提供／北村徹写真事務所)



再生された小さな迎賓館



西日に透ける色ガラスの長い影

写真提供／北村徹写真事務所



おかむら ひろゆき
岡村 浩之
岩松守ろう会員
一級建築士

小西本家については、次項で詳しく解説されているので省略するが、江戸末期に岩松川の河川改修を行い、完成した川港前に屋敷を建てた。それらの建物は、屋敷構えだけを残して、ほとんどが壊されたが、建物として残っていたのが、今回修復された「色ガラスの家（ゲストハウス）」とそれ続く蔵だ。

これは、あくまでも私の想像だが、この建物は、経済的に津島地区を支えていた小西本家の当主が長崎辺りを旅し、彼の地で色ガラスが施された部屋で接待を受け、帰省後、その部屋をモデルに遠来の客人や藩の役人を接待するために作らせたのではないだろうか。

この「色ガラスの家」と呼ばれる離れ座敷が、いつ造られたのかは不明だが、隣接する蔵の地鎮祭に使われた札を収める木箱が残っていて、その木箱には慶応二（1866）年と記されていることから、



おそらく、その一、二年後に蔵は完成したと思われる。「色ガラスの家」も、同じ頃に建てられたと考えるのが自然だ。

この建物が百年以上の時を経て構造上あまり傷んでないのは、地盤がしっかりしていることと、相当丁寧な仕事があったであろう事は想像に難くない。そして、基礎に



(写真右上) 一階にあるトイレには明治以降、洋館などで珍重されたマジョリカタイルが施されている

(写真右下) 入口の立派な石の踏み段の奥に色ガラスが見える

(写真左上) 二階からの岩松川の眺め

(写真左下) 床の間と書院 (二階八帖間)

接する土台に椎（シイ）の木を使用していることや、床下の湿気がしつかりコントロールされていたことで土台から修復する必要はなかった。また、建物の大半は、おそらく岩松川上流の御模^{ごも}辺りで伐採された良質の梅（ツガ）が使われている。

間取りは、一階、二階とも同じ八帖と四帖半の和室で、それぞれの間に床の間が備えられ、床の間には※書院が付く。そして、各部屋には縁が配され、別の部屋を介さず行き来できるような造りになっていたと思われる。

そして、色ガラスは、一階八帖間の川沿いの引き戸に施されているが、建物同様、いつ設置されたものか分かっていない。しかし、近々、割れを修復するために専門機関に送るので、あわせて産地や製造年も詳らかにされるだろう。

今回、WMF（ワールド・モノUMENT財団）からの援助を受け修復出来たが、今後は、文化遺産で求められる歴史的芸術的に本物であるという、オーセンティシティの信念を貫き、この建物をいかに有効に活用していけるかが、我々に課せられた大きな課題と言える。

※床の間の横、屋外に近い側に設けられる座敷飾りのこと

岡村 浩之プロフィール

1960 年 愛媛県生まれ
1981 年 東京デザインアカデミー 卒業
1982 年 西原由人建築事務所 入所
1990 年 岡村浩之建築事務所 設立
2021 年 J I A 文化財修復塾修了

写真提供／北村徹写真事務所



豪商 小西家の歩み



(写真：上) 往時の小西邸。正面左角の建屋が今回修復された離れ
(写真：左下) 10代小西莊三郎（2階の右から二人目）と小西家の人々
(写真：右下) 馬上の人物は、9代莊三郎と思われる。神社と思しき場所
は、小西家が巨額の寄進をした岩松の三島神社だろうか



町並みを歩いてみると、岩松の町並みは、比較的海抜の高い「土居の奥」を起源として、岩松川に向けて「本通り」、芳原溝を通じた「中道通り」^{なかみち}、「川沿い通り」、更に北灘湾に通じる「港町」の順に形成されたという痕跡をみつけることができる。

一四世紀中頃、母屋の周囲に広庭を有した草屋根の農家が数軒あった。住人は農業や養蚕業を生業としていた。戦国時代には天ヶ森城の砦を守る土居^{どい}を造り、その囲いが江戸中期まで残っていた。

江戸初期、幕府や大名は検地以後の新田開発を奨励し、中期には免税期間を認めた。貞享元（一六八四）年、板島（宇和島）在住の米屋惣兵衛（後の本家小西）は低地にある田畑を土居の奥の住人から買い求め、本通りに石垣を造って家数三八軒の岩松で酒造業を創設する。原料米は津島組米も他所米も使った。大桶や酒樽を造る杉材を山から川へ流送したり、商品の酒樽を運送したりする廻船や樽職人・杜氏の住む長屋を造った。ここから岩松村は農村から川港を基盤とする町場へと変化していく。

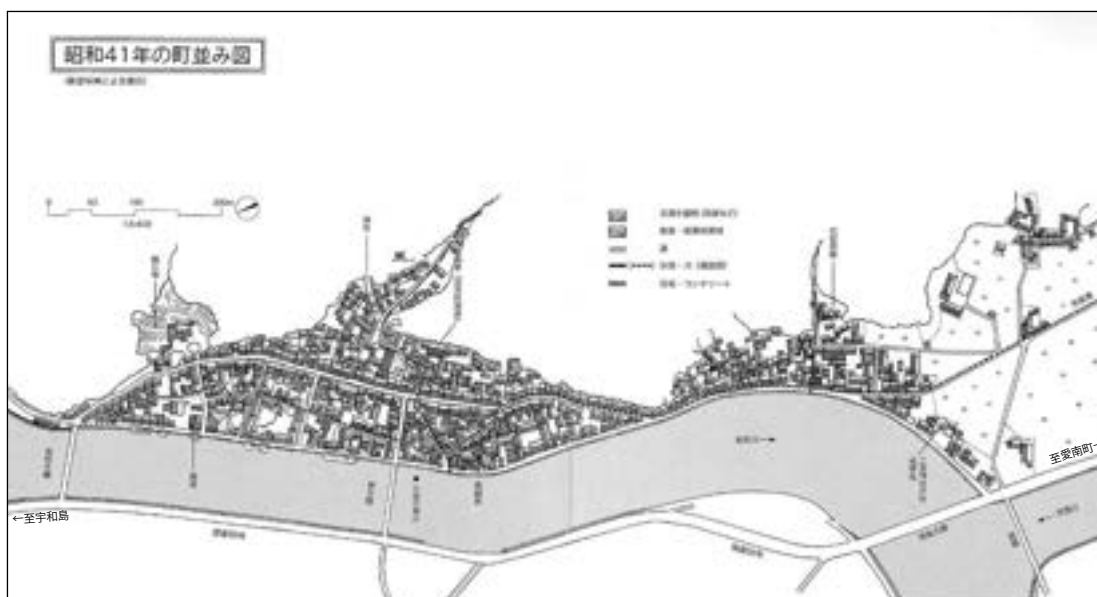
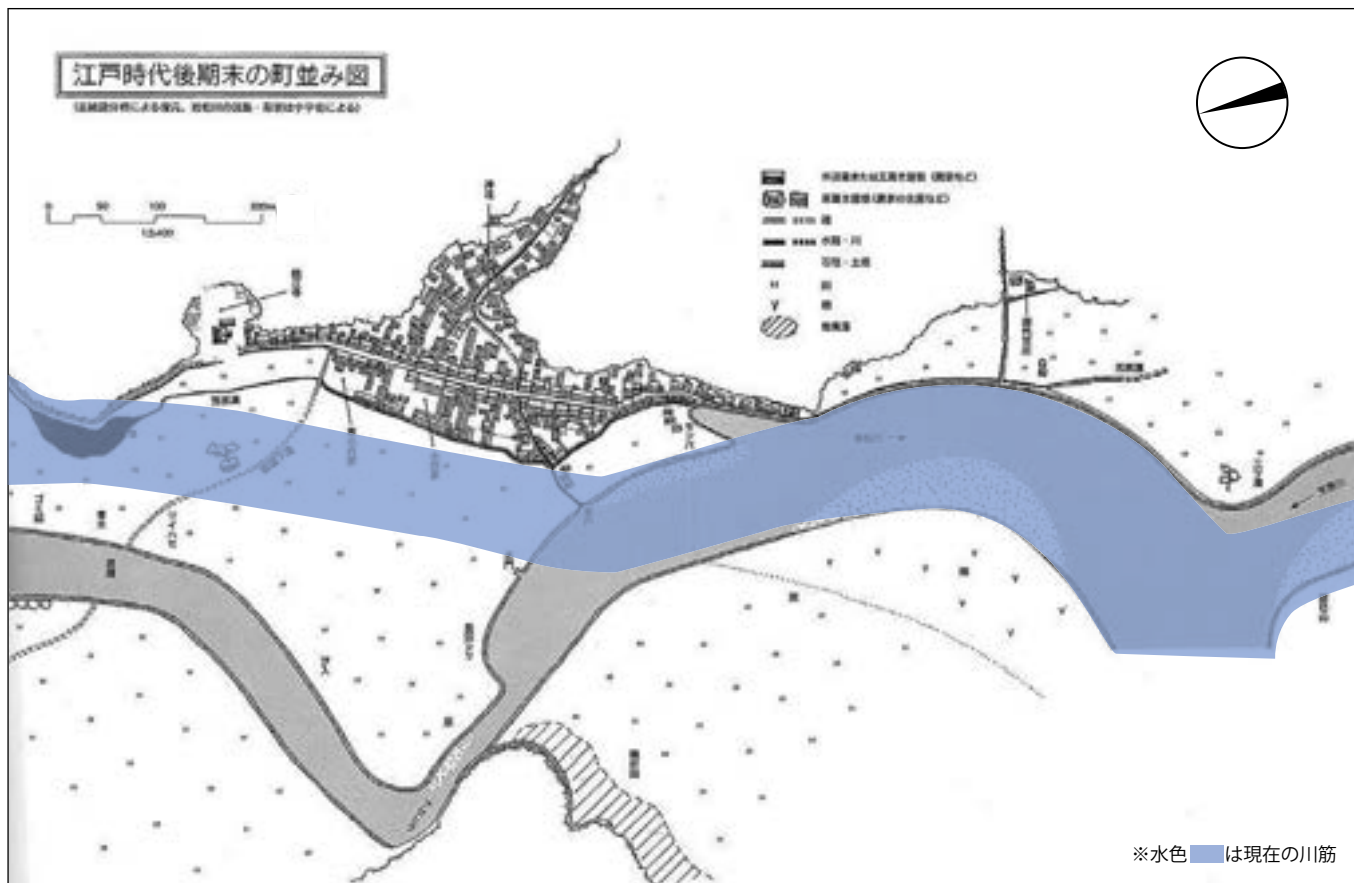
江戸中期、元禄二（一六九九）年には近家に塩田を開発し、明治三八（一九〇五）年に専売制が施行されるまで小西家による塩田経営が続いた。明和六（一七六九）年には、津島組の産物の増加に伴って岩松は、

※1) 集落や城・館（やかた）の周囲に、外敵から守る備えとして設けた土の垣（かき）。



まつだ あつこ
松田 厚子

宇和島市文化財保護審議会委員



岩松「愛媛県宇和島市津島町伝統的建造物群保存対策調査」より

その交易の場として活気付いた。この年、三代久八の四男が分家して本家の上手に居を構えている。久八は酒造業の拡大を図る一方、岩松大火の救済や宇和島藩の事業に米穀や献上金によって寄与した。藩からは名字帯刀を許され、質商の許可を得た。後期になると、藩命によって四代安太郎は、祝森村保田橋の架け替えを、五代惣三郎は文化元（一八〇四）年、製蠟業を開始し、御用商人としての務めを果たした。惣三郎は御用商人で最も格の高い蠟座頭取役を務めた。六、七、八代惣三郎は水害防止の堤防や直川工事に尽力した。その一方、小西家は藩の許可を得て次々と新田開発を行い、所有地を増やして大地主に成長する。明治中期までに両家とも中道通りを挟んで川沿い通りまで地続きの屋敷にしていた。江戸中期、頻繁に発生した大洪水は、土砂を運んで、江戸後期の岩松川を浅瀬にした。それゆえ、明治九（一八七六）年には、船場から河口に至る水田地帯を造成して港町が成立する。東小西家（分家）や笹屋は、そこに倉庫を造って浜や船場を移し、昭和初期まで廻船業を続けた。戦後（昭和二〇年）から農地改革の影響を大きく受ける一方、製蠟業・酒造業の需要も減少した。一〇代惣三郎は、三〇年代後半には家業を閉じている。九代、一〇代は県下の多額納税筆頭にあり、実業家として活躍する傍ら、各種の社会事業に貢献して信望を集めた。小西家の約二八〇年の家業の歩みは、岩松の町並み形成の歴史そのものと言える。

※3) 小西家につぐ豪商で林業、廻船業を営んでいた ※2) 6～10代まで同名



小西本家の品々から繋がる物語

布袋さま



御旅所にて一休みするほてい様

宇和島市津島町では、毎年11月3日に秋祭りが開催されます。当日は旧商店街の御旅所で神事が行われ、各地域からそれぞれ、牛鬼や五つ鹿踊り、御神輿、お舟、布袋行列が繰り出して豊作を祈願します。

「頭をなでてくださいや」、「今年もこれで安心よ」、女性は、にこやかに笑い、少し恥ずかしそうに布袋さまに近づき、頭を下げて布袋さまの大きな手で頭をなでてもらいます。子どもを抱いた親は、泣きじゃくり、怖がる子どもをあやしなから、「怖くないけん、大丈夫よ」と、布袋様に我が子を差し出します。

身長は、約2メートル。豊満なお腹を突き出し、大きな腕をゆっくりと振りながらお供に稚児、天狗とお多福を連れて岩松の人家を一軒一軒訪れ「福」を運ぶ。大きなその手で頭をなでられると、その年は、家庭円満、金運に恵まれ、笑顔の絶えない幸せな一年になると伝えられています。

ずっと昔、岩松川の下流一帯の農民たちは、毎年のように川の氾濫と洪水によって田畑が流され苦しめられていました。そこで、当時の津島町一帯を取り仕切っていた小西家が堤防を築き、大々的な川の付け替え工事を執り行いました。そして、慶応2（1866）年、工事が完成し現在の岩松川の姿となりました。

当時の川の流れは、現在の宇和島市役所津島支所や岩松小学校の裏を通り汐入橋付近へ流れていたそうです。付け替え工事の結果、新しい田畑が多く出来、川の氾濫、洪水の被害も無くなり大変豊作になったそうです。

そのお祝いに小西家の番頭さんが、農家の人々と共に秋祭りを楽しむため、布袋さまの恰好（かつこう）をして一軒一軒訪れたのがはじまりと言われています。布袋さまは、七福神の中でも唯一実在した人物で、笑った時に額や鼻のまわりにシワが寄る愛嬌の良い表情で人々から愛され、人徳、福運の神様。豊満なおな

かえて 楓のタンス

岩松の町並み保存活動を通して、あるご夫婦と出会いました。奥様は、津島で生まれ育ち、結婚後は関東で暮らしていました。そして、時々お母さんに会うため里帰りしている内に、岩松の歴史に興味を持ち、町並みのことを調べるようになったそうです。

彼女の実家には、小西家にあった一間もののタンスがありました。美しい木目と高い耐久性が特徴の楓の木（カエデ）のタンスを彼女はとても気に入って、「これだけは母が亡くなった後譲り受けた」と言っていました。

そして、私が出会って3年ほど経った頃、彼女は病に倒れ、帰らぬ人となってしまいました。その後、ご主人から「岩松の町並み保存活動に役立てて欲しい。これは、彼女の願いです」と、多額の寄附金をいただきました。それから数年後、彼女のお母さんが施設に入られることになり、あの楓のタンスは行き場所を失い、町並み保存会が譲り受けることになりました。

今、そのタンスは松山の「酒処 ひょうどう」にあります。私の息子が飲食店を開くとき、「あのタンスを食器棚として使わせてほしい」と言ってきたのです。



酒処ひょうどうにある楓のタンス

生まれ育った岩松の町が少しでも賑わいを取り戻せたらと願っていた彼女。お気に入りのタンスは食器棚として生まれ変わり、賑やかな酒場で楽しそうに酒を酌み交わす人々を見守っています。

■酒処 ひょうどう

松山市二番町 2-5-9 マチナカビル 1F
☎ 089-997-7017 定休日／日曜日
営業時間／18:00 ～ 24:00(L.O.23:00)



兵頭 肇 ひょうどうはじめ

元岩松町並み保存会 代表
企業組合いわまつ 代表理事

企業組合いわまつ <https://nasso.exblog.jp/>

かと大きな福耳から富（財）と繁栄をもたらすと言われています。

戦後、小西家より商工会に託された布袋さまは、岩松の町に残る数少ない独自の祭り、後世に残していかなければならない大切なものとし、商工会青年部OBの方々、地元有志によって『ほていさま保存会（仮称）』が発足されました。

お祭りで布袋さまがやってくるのを、楽しみに待っている人々や老人ホームなどを訪れたとき、生き生きとして喜んでくれるお年寄りたち。怖いけど、興味深々で後ろを付いてきてくれる子どもたちの姿を見て、とてもやりがいのある活動だと思っています。



大正期のほてい様（岩松町絵葉書より）

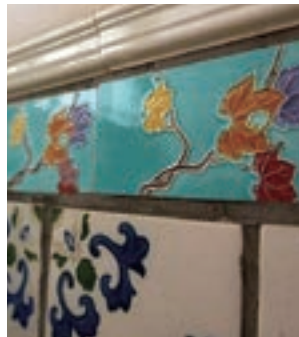


昭和50年代の町並みとほてい様

田村 篤司 たむらあつし ほていさま保存会

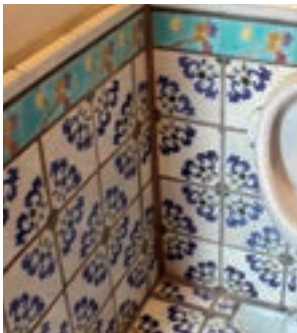
時を越えて生きるタイル

「色ガラスの家」の見どころのひとつに、トイレに貼られた美しいタイルがあります。壁を縁取る水色のタイルは「マジヨリカタイル」と呼ばれるものです。元々英国の陶磁器メーカーのミントンが、カラフルな釉薬を使った硬質陶器タイルを「マジヨリカタイル」という商品名で売り出し、日本でも明治時代に洋館の暖炉などに使われました。そして、同様のタイルが主に大正から昭和戦前にかけて日本の多くのメーカーによって製造されました。「色ガラスの家」に使われているのは、この日本製のマジヨリカタイルと思われるます。



同じ模様のマジヨリカタイルが、愛知県常滑市にある「世界のタイル博物館」に収蔵されている。

床と壁に貼られているのは、違う種類のタイルです。「せともの」の名で有名な陶磁器の産地、愛知県の瀬戸で大正時代に作られた「本業タイル」と呼ばれるものです。陶器製ですが磁器のようになめらかな質感です。型押しで凹ませた模様の部分に彩色してあり、4枚のタイルがつながると現れる花模様は東洋的な雰囲気を感じさせます。



半乾式という製法で作られた本業タイル。宝相華文（ほうそうげもん）を思わせる花模様は気品がある。

私は、ある時、ふらっと訪れた蚤の市でタイルが売られているのを見つけ、美しい青と珍しい模様に惹かれて購入しました。そして、ある日、「日本の洋館」という本を眺めていたとき、そこに載っていた小西本家の写真に目が釘付けになったのです。「あのタイルと同じだ！」蚤の市では、四国で仕入れたものだと思っていたので、もしかして、この写真の建物が壊されてタイルが古物商に流れたのではないかと不安がよぎり、居ても立ってもいられず、宇和島市に問合せたところ、建物は現存することでした。

現地へ駆けつけ、職員さん立会いのもと持参したタイルを並べて見比べると全く同じものでした。お話を伺うと、「元はお風呂場にも同じタイルがあったが、かなり昔に改修で剥がされた」ということでした。私の手元にあるタイルが、小西本家のお風呂からめぐりめぐってやって来た。物かどうかは、今となっては確かめるすべもありませんが、こうして縁のできた小西本家の建物が、このたび修復工事を終え将来にわたり保存活用されることは本当に感慨深い限りです。

吉田 真紀 よしだまき

タイルを愛する会社員。週末旅で全国の貴重なタイルを見て歩き、現地で価値を伝えたりSNSなどで魅力を発信している。

Blog まちかど逍遙

 punyor_photo



岩松守ろう会の取り組み

岩松では、15年以上前から、重要伝統的建造物群保存地区（以下伝健地区）選定につなげようと「岩松町並み保存会」が活動を続けていました。しかし、メンバーの広がりもなく、イベントの開催や特産品（どぶろくNASO）の開発・販売がメインとなっていました。そんな折、宇和島市が岩松の町並み保存事業を重要施策の一つとして推進していくことが発表され、同会を発展的に解



ワールド・モニュメント財団（WMF）ダーリン・マクロード上席事業顧問（下段中央）からWACH選定認定書の伝達式の後関係者で（2019/11/18 津島町商工会前にて）

今後は、岩松地区の伝健地区選定を目指し、改修された「旧小西本家（色ガラスの家）離れ」を活動の拠点として、地区住民への啓発活動、観光客への岩松ガイド、岩松の良さを子どもたちへ伝える活動などを積極的に進めて参りたいと思います。

そして、その動きに呼応するかのようにより「旧小西本家（色ガラスの家）離れ」の改修支援のお話があり、まさに当会にとって渡りに船、となりました。

散して、岩松地区全住民が参画し、活動できる団体にしようと立ち上がったのがNPO法人「岩松守ろう会」です。



にしざき とおる
西崎 徹
岩松守ろう会長

●Watch Day（ウォッチデー）について

WATCH プログラムの一環として、地元主体に企画・実施される文化遺産保存啓発活動で、WATCH に選定された文化遺産を有する世界中の地域社会で企画・実施されています。



●ワールド・モニュメント財団とは

ワールド・モニュメント財団（WMF: WorldMonuments Fund）は1965年に米国ニューヨークで設立された非営利民間組織です。国や文化の枠を超え、歴史的建造物などの文化遺産を保護・保存することを目的とし、世界各地で政府などの公的組織及び民間のパートナーと協力して、経済的・技術的支援活動や教育・啓発活動を行っています。

●再生事例 <https://www.wmf.org/sites/default/files/article/pdfs/World%20Monuments%20Fund%20in%20Japan.pdf>

鞆の浦 … 江戸時代末に建てられた港近くにある歴史的建造物、坂本龍馬ゆかりの魚屋萬蔵〔うおやまんぞう〕宅の保存活動を支援、2008年に観光案内所・博物館・宿泊所として利用できるように修復再生されている。

尼門跡寺院（宝鏡寺門跡阿弥陀堂〔勅作堂〕など）… 尼門跡（あまもんぜき）寺院とは、皇女や王女、あるいは公家や将軍家の息女が入寺した寺院を指し、皇室ゆかりの御所文化が育まれ、独特な宗教儀礼と信仰生活が形成されました。

少彦名神社参籠殿（すくなひこなじんじゃさんろうでん）… 大洲市（菅田）に在する、京都清水寺の舞台に見られる「懸け造り」様式の昭和初期の木造建造物です。参籠殿は、少彦名命（すくなひこのみこと）の終焉の地、現在の大洲市中央を流れる肱川、の南岸に位置する梁瀬山の中腹、少彦名神社境内の急斜面に、その大部分（約93%）が空中楼閣の如く溪谷に張りだすように持ち出されている建物です（中野文俊設計）。また、少彦名命は、おとぎ話の一寸法師のモデル、そして道後温泉の開祖、また薬の神様で知られています。

<https://www.city.ozu.ehime.jp/site/bunkazai/20247.html>



少彦名神社

八幡浜市立日土小学校（2012年WMFノール・モダニズム賞を受賞）

… 第二次世界大戦後に建てられた革新的な現代建築作品を対象とし、国際的にも類例建築の模範となる修復・保存活動が注目され、日本では、まだ日の浅いモダニズム建築遺産の保存活動を活気づける結果となりました。

<http://www.city.yawatahama.ehime.jp/docs/2016033100011/>



日土小学校



沖の渡し【丸之内 昭和 28 (1953) 年頃】

「渡し」といえば、愛媛ではおよそ500年前から現在まで運行されている「三津の渡し」が有名だが、私がすぐに連想するのは、歌人・伊藤左千夫の小説『野菊の墓』の「矢切の渡し」である。政夫と民子の幼く淡く、はかない恋の舞台となったそこへは、高校時代から何度となく訪れている。千葉県松戸市の下矢切と東京・葛飾区柴又の渡し場を結ぶ、現在では唯一現存する江戸川の渡し

「矢切の渡し」は、昭和40(1965)年頃は不定期運行だったが、柴又を故郷とする寅さん映画ブームの過熱により、観光客用に連日数回運行されるようになった。本来『野菊の墓』の原作では千葉県側の渡し場が舞台であり、小説の情景を追って河川敷から田圃のあぜ道をたどると「野菊の墓文学碑」がある。

昭和25(1950)年生まれの私が知っている宇和島の渡しは、内港の一部として残っていた丸之内5丁目付近の埋め立てが始まる同33(1958)年頃まであった。丸之内の松下釣具店(元平和薬局)前から対岸の栄町港を往復していた「沖の渡し」で、渡し舟は手漕ぎの木船である。35(1960)年以降に架けられた現在の「堀末橋」がほぼ渡し舟のコースで、この辺りは往来が激しく、車で走っていると架橋の上というのを忘れてしまう。それから類推すると「沖の渡し」はかなりにぎわっていたと思われる。

写真の櫓を漕いでいるのは、宇和島で最後の船頭和泉武男さん。真夏の暑い盛りなのだろう、日傘を差した女性や麦わら帽の子どもの姿、左側のおかっぱ頭の少女の足もとには船賃を入れる木箱らしきものも見える。櫓の下にある水竿は、到着時に対岸の石垣の穴に突き刺して、客を降りやすいように船を引き寄せたりしたようだ。

満杯で転覆事故が起ったたりして、年中無休の大変なお仕事を担った和泉さんは榊形町にお住いだったが、昭和初期から親子二代にわたる船頭さんであり、渡し舟廃業後は宇和島南校や東高の用務員として務められた後、松山へ移住された。

登下校時にいつも乗船していた友だちの話では船賃は「小学生3円だった」とか「子どもはタダだった」とかさまざま。どうも正式な料金はなかったようで、私の小学生時代、

子どもたちのたまり場だった駄菓子屋の甘納豆やガムのくじ引きやお好み焼の一番小さいサイズが「5円」からあったから、推して知るべしである。

渡し舟の背景には、漁船や機帆船の大漁旗も数多くはためいているので和豊さまの夏祭りの頃であろうか。右後方には城山の緑が茂っている。宇和島の内港が隆盛したこの当時は日本映画全盛期とも重なり、大漁旗が延々と海を埋めつくすなか、盛運汽船の棧橋では哀愁のラストシーンがよく撮影され話題を集めていた。



【現在の様子】

が延々と海を埋めつくすなか、盛運汽船の棧橋では哀愁のラストシーンがよく撮影され話題を集めていた。

※1 「僕の家というは、松戸から二里ばかり下って、矢切の渡しを東へ渡り…」という小説の冒頭部分の一節を刻んだ、伊藤左千夫の門人・土屋文明の筆による文学碑が昭和40(1965)年松戸市に建立。

※2 『南海の狼火』(昭和35年/日活 小林旭主演)や『新網走番外地・流人岬の血斗』(昭和44年/東映 高倉健主演)などがあり、盛運社の汽船「三浦丸」や「うわかい」が特別出演している。

田部 司 たなべつかさ

プロフィール 昭和25(1950)年生まれ 宇和島市在住 日本眼鏡技術者協会会員
シネマニア宇和島・タナベ昭和館主宰

写真・文/田部 司

忘れられた宇和島を再発見！
宇和島探検 創刊号
7月下旬刊行予定
田部 司・編集

写真/山崎昌徳



フィッシュガールの挑戦



フィッシュガールの誕生

愛媛県では「愛媛で愛情を込めて育てた魚」を愛育フィッシュ（登録商標）と呼び国内外でPRを行っているが、まだまだ知名度は低い。

そんな中、クロマグロの養殖をされている日振島養殖LLP代表の福島和彦氏と同じ地域活性化の会に参加させていただいて

いたこともあり、何か一緒に地域活性化に関する取組ができないかと考えていた。そこで、高知海洋高等学校の実習船で捕ったマグロを利用して

たマグロ解体ショーに習って、愛媛県も売り出し中の養殖クロマグロを使った解体ショーが行えないかと考えた。

宇和島水産高校では、「まぐろ缶詰」を製造しており、缶詰を製造する際に生徒がビンナガを解体する。そこで、生徒の技術を生かして福島氏が育てるクロマグロの解体ショーができないかと提案してみたところ、「面白い」と、福島氏から愛媛県農林水産部ブランド戦略課（当時）の西村幹史朗氏に持ちかけたところ、「産学官連携でPRを行いますよ」と言うことになり、フィッシュガールの取組が始まることになった。



※1) スズキ目・サバ科に分類される魚の一種。全世界の熱帯・温帯海域に分布する小型のマグロで、缶詰などに用いられる重要な食用魚。

フィッシュガールの命名

マグロ解体は、ブランド戦略課の西村氏のアイデアで、どうせ行なうなら日本一のデビュー戦をさせたいと言うことで、東京の日本橋三越でのマグロ解体を行うこととなった。また、同時にプレスリリースを行うことによってテレビ愛媛が練習の段階から密着取材をしてくれることになった。

取材は練習だけでなく、普段の学校生活も取材され、その時に「解体するチーム名はありますか？」と聞かれた生徒の一人が、「フィッシュガール」と、とっさに答えたことから、「フィッシュガール」という愛称が代々受け継がれている。

よく複数で行っているのが、「フィッシュガールズではないですか？」と聞かれるが、生徒が命名したもので「フィッシュガール」が正式名称となっている。

マグロ解体ショーについて

平成24（2012）年に日本橋三越でマグロ解体ショーを初めて行ったことにより、百貨店・量販店業界で徐々に知られるようになった。当時、同店の新しい取組は業界では非常に注目されており、業界の多くのバイヤーが解体ショーの視察に来ていた。このことは後になって分かることだが、初期の解体ショーの依頼の多くは、日本橋三越でのショーを見て依頼したいと言われる事が多かった。

こうして、東京から始まった解体ショーだが、2年目からは県内で、4年目に



①



②



③



④

写真① ハワイでのマグロ解体ショーの様子
 写真② ベトナムでのマグロ解体ショーの様子
 写真③ 神戸でのマグロ解体ショーの様子
 写真④ 「※3」ディスカバー農漁村（むら）の宝」で安倍首相（当時）に試食してもらっている様子
 ※3）「強い農林水産業」、「美しく活力のある農山漁村」の実現のため、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより地域の活性化、所得向上に取り組んでいる優良事例を選定し、全国に発信するものです。



すずき やすお
鈴木 康夫
 宇和島水産高等学校 教諭

プロフィール
 神戸市出身。大学卒業後、宇和島水産高校に赴任し水産高校一筋 26 年目。
 「生徒の活躍の場は校外にある！」と、地域の人々に助けられながら教育活動を行っている。

生徒の活躍

フィッシュガールになりたいと言って

これにより、マグロ解体を行う技術が習得しやすくなり、解体ショーの回数が平成26（2014）年より飛躍的に増加した。また、この取組を始めた当初は、愛媛県農林水産部が多くのフエアを探してきてくれることが多かったが、現在では、農林水産部だけでなく、愛媛県営業本部も力を入れてくださっている。

は海外でも行っている。
 当初は、まぐろ缶詰実習で習得する解体技術を生かして活動を行う予定であったが、解体ショーに参加する生徒が実習だけで技術を習得することが難しいことから、宇和島市内の辻水産株式会社依頼し、商品として利用価値がないマグロが出た場合に練習をさせていただくようになった。

入学をする生徒が平成26（2014）年より現れ始めた。また、この年にフィッシュガールになった生徒は、非常に意欲的で、学校外で行う取組を案内すると休日返上で、ほとんどの活動に参加する生徒ばかりだった。また、生徒たちが、常に笑顔で行動をしていたため、非常に人気が高く、多くのテレビにも取り上げられるようになった。
 また、フィッシュガールの活動を生徒がまとめた意見発表「フィッシュガールの挑戦」は全国の水産系高校で行われた全国水産・海洋高等学校意見・体験発表会で全国最優秀に選ばれるなど、今までに多くの受賞歴がある。
 このように、フィッシュガールとして活躍する生徒は、多くの取組を行っている。また、教育活動の中でも積極的であり、フィッシュガールが科目「課題研究」

※2）フジテレビの夏の特番「27時間テレビ」を皮切りに、全国放送では、「日本のチカラ」（民教協）、日テレ春の特番（日テレ）、鶴瓶の家族に乾杯（NHK）、Rの法則（NHK教育）、朝だ！生です旅サラダ（テレ朝）、あさチャン（TBS）と多くの番組にも出演した。

で開発したマダイのカマを利用したレトルト食品「鯛媛カレー」は、島原本舗が商品化し、地元のスーパー等で販売されている。
 しかし、近年ではフィッシュガールに憧れて入学する生徒が必ずしも成功をしているとは言えない。それば、メディアなどで多く取り上げられることにより、華やかな部分だけを見て、憧れていることによると思われる。
 今まで活躍したフィッシュガールたちは、前述したように自分の時間を犠牲にしてでも、色々な取組に挑戦してみたいという生徒たちばかりである。そのような、陰の努力があつてこそその成功であるが、そんなことを知らずに入学してきた生徒には、活動にギャップがあり、フィッシュガールとして続かないということが数年続いた。そのため、現在は入学し

てきた生徒に応じた取組を行いつつ、生徒の資質を向上させ、活躍できるよう、育成方法を変えながら取組んでいる。
 現在の部員数は、男子2名、女子4名の計6名。皆、フィッシュガールの目的（自分の成長と地域活性化）をよく理解していて、非常に良い活動ができていると思う。

フイッシュユガールの素顔 魚の魅力や地域の良さを伝えたい！



校舎の屋上で集合写真。魚のポーズで「ハイ、チーズ！」（海中の魚と同じで、個性あふれる魚のポーズ）

「フイッシュユガル」とは、愛媛県立宇和島水産高等学校の部活動、水産食品研究部でマグロの解体ショーを通じて県産養殖魚のPRに一役買っている女子生徒のことだ。部員は現在、男子2名、女子4名の計6名。そのうち「フイッシュユガル」として活動している、2年生の山下咲良さん、兵頭優衣さん、倉本愛梨さんに話を聞いた。

「フイッシュユガル」になろうとおもった理由は？

山下…「体験入部の際に先輩達の解体ショーを見て、すごかった！いいと思って、私もあんなふうに魚を綺麗に捌いて、多くの人に宇和島の良い所を見せられたらいいなと思って入部を決めました」

兵頭…「中学生のときに『フイッシュユガル』の存在を先生から教えてもらって、インスタグラムを見ていたら、先輩達が多

くの外国人の前で解体ショーをしていて、カッコいいなと思いました。元々魚が好きなので、



私も海外でたくさんの方の前で解体ショーをしてみたいと思います！

倉本…「入学前、テレビで『フイッシュユガル』が大きなマグロを捌くのを見て、私もやってみたいと思ったのが一番最初のきっかけで、水産高校への入学が決まったときに、どうせ魚を捌くのなら一番大きいマグロを捌けるようにしたいと思い入部しました」

活動は？

「昨年からコロナの影響で活動が制限されているので、マグロの解体ショーも、リモートで行うなど、新たな方法を試行錯誤しています。実演も松野町の「軽トラ市」や市内の中田水産が行う、地元の小規模イベントが中心でした」

解体の練習

「練習で捌く魚は、ほとんどの場合販売できなくなったマグロを使わせてもらっています。そういった魚ですが、命をいただいて練習をさせていただいていると考えながら活動をしています」

大変なことは何ですか？

山下…「解説は自分一人で考えたり、色々な人の意見を聞いて作り上げますが、先生に相当ダメ出しされることもあって、結構しんどいです。」



解説を作るときに他のメンバーと意見が食い違うこともあるのですが解説を作っている間は、絶対に険悪なムードにならないように気をつけています」

兵頭…「解体ショーの当日にならないとマグロの重量が分からないので、いつもよりも重かったら、上手く捌けるか不安になります」

倉本…「文章を書いたり覚えるのが苦手なので、イベントやお客さんによっても解説の内容を変えて作らないといけないのがとても大変」

楽しかったことは？

山下…「解体ショー以外にも色々な魚を全国の様々な地域に発信し、知ってもらえる事が嬉しいです。また、解体ショーでは解説担当ですが、言い回しや、お客さんに興味を持ってもらえるように話の導入・流れなどを考えながら創作するのは、やりがいがあります」

兵頭…「普段は各自一人で練習をしているのですが、この前初めて一人一匹のマグ

ロの解体を練習して、いつも出来ていないことを3人でアドバイスし合いながら捌いたのが楽しかったです」

解説と捌き担当は、どうやって決まるのですか？

「決め方は、特にありません。普段の練習で一番きれいに捌ける人が解体ショーで捌き担当になったり、最初の解体ショーで解説をやったので、その後もやるように…という感じです。捌くよりも解説のほうが大変なので、解説担当は捌きをやりたいと思うことがあります(笑)」



鈴木先生…「解体ショーでお客さんに喜んでもらえるかどうかは、大部分が解説にかかっています。魚をさばくのが多少下手でもお客さんは喜んでくれますが、解説が上手くなければお客さんは途中で、いなくなる人が多いです。人を惹きつける解説を考えるのは本当に難しいので、多くのフィッシュガールは苦戦しています。しかし、惹きつける解説ができるようになれば、解説をするところが、めっちゃくちゃ楽しくなってきます」

今後の目標や夢は？

山下…「周りの人達に魚の良さや地域の良さを伝えるのが部全体の目標です。私達

には女子高校生、という強みがあるので、積極的におもてに出て、卒業までに部員みんなで宇和島の魅力や魚の良さを広めていきたいと思っています。将来は、料理関係の仕事に就きたいと思っていますので、修行して知識を身につけ、一度は県外に出て、その後、宇和島に帰ってきて故郷の良さを伝えられたら良いと思います」

倉本…「将来の夢は、まだ決まっていませ

んが、宇和島に大きなショッピングモールを作ること。それによって若者が宇和島から出て行かなくなるし、地元にお金を落としてもらえると思う。そこにミニ水族館とか出来たら良いな」

フィッシュガールの三人は、まるで宇和海を泳ぎ回る生きのいい魚だ。質問に手を上げて小気味よく応えてくれる。まさに「快活」という言葉がぴったりだ。そんな彼女たちが光り輝く解体ショーが、一日も早く開催されることを願わずにはいられない。



この日は、新しい缶詰のラベル貼り。解体ショーのように上手くはいかない。

今年度製造・販売予定の缶詰

■鯛めしの素缶詰

マダイのアラをたっぷり使用し、だしを取っているため、しっかりとした味の本格的な鯛めしが作れます。



■ぶりだいこん缶詰

刺身でも食べられる新鮮なブリと愛媛県内の農業高校で育てた大根を使用した缶詰です。消費者からは缶詰とは思えない高クオリティーという評価をいただきます。



■サーモン中骨缶詰

近年、宇和島では、出荷で空いた生簀を利用して生産され始めたみかんの香りがするサーモンの養殖を始めました。その中骨を使用した缶詰です。オリーブオイルを使用しているのでいろいろな洋風料理にアレンジできます。



(その他の缶詰め)

■ぶりあらだいこん缶詰

■かつお油漬缶詰

■うるめいわし油漬缶詰

※製品の一部は下記サイトからご購入可能です。

■愛媛県観光物産協会の楽天市場 <https://item.rakuten.co.jp/e-bussan/c/0000000797/>

宇和島水産高校の創生

昭和 20 (1945) 年 愛媛県立水産学校 (漁業科のみ) として設置される

昭和 22 (1947) 年 「愛媛県立水産学校昇格期成同盟会」が発足

「戦争末期で、毎日防空壕掘りばかりでした。授業は手につかず、勉強したのは終戦後のわずかな間だけ。学校のそばの海は今のよう汚れておらず、よく泳いだ。(宇和島水産学校 1 回卒業 山本さん)」

昭和 23 (1948) 年 「県立水産高等学校」に昇格

昭和 24 (1949) 年 学校再編により「宇和島南高等学校水産過程」となる

「水産課程は男ばかりだし、本校へ行くと女生徒がおり、なごやかなで楽しい雰囲気があった。卒業する前に独立すると聞いたが、母校ができたら、うれしかった。(南高水産課程最後の卒業生 山口さん)」

昭和 31 (1956) 年 愛媛県立宇和島水産高等学校として独立

「独立して水産高だという意識が生徒の中に高まった。自分の城ができたと思うと、うれしかった。校長先生が“県下水産界の中堅人物として貢献するよう心を引き締めて奮起を…”と訓示したのを覚えている。南校時代は本校との間を行ったり来たりしたが、南の生徒とは余り交流がなかった。本校へ行く時は女生徒の顔を見るのが唯一の楽しみだった。(独立後初の卒業生 柴さん)」

昭和 31 (1956) 年 愛媛県立宇和島水産高等学校として独立 (独立式典が行われた 5 月 10 日が開校記念日となっている)

昭和 34 (1959) 年 校歌制定

昭和 39 (1964) 年 校旗制定

※青文字＝毎日新聞 昭和 51 (1976) 年 8 月 27 日～9 月 18 日掲載「わが母校」宇和島水産高編より

地元の産業を通して顧客貢献を行い、“真珠”に対する関係人口を増やす



私自身は
宇和島に戻
って未だ6
年ですが、
4年前から
はEC事業
(Amazon、
Yahoo、楽
天等)を開
始し、リア
ルとバーチ

弊社は昭和58年4月に地元の産業を全国に広めたいとの想いで私の父が創業致しました。宇和島の名産品と言え、柑橘類、養殖魚、真珠など様々ありますが、父が元々小さいころから真珠養殖場の多い海の近くで育った事もあり、地元の「あこや真珠」を日本全国に広めたいとの想いでスタート致しました。

その後、地域の方々のお力添えもあり、日本全国へ「あこや真珠」を卸売りすると言う事業領域に乗り出す事になりました。その卸売り事業も今では日本全国約1300社のお客様とお取引をさせて頂き、日本の宝石であり宇和島の宝である「あこや真珠」の良さを、より多くのお客様に訴求する事が出来ているのではないかと感じております。

今後は「あこや真珠ベンディングマシン(自動販売機)」、「アパレル企業とのOEMブランド展開」等、既存の枠にとらわれない、新しい事業を展開し、国内で成長したドメイン※1)を海外のお客様に展開する：そういった取組を次々に推進して参りたいと考えております。

これからは、自社の事業が、どれだけ社会と密接な関係を維持出来るかが重要な世の中になると思います。「あこや真珠」は、宝石の中でもサステナブルでエシカルな唯一の宝石です。昨今叫ばれているSDGs(エス・ディー・ジーズ※2)のシンボル



大好評の「あこや真珠ガチャ」1,000円で真珠のアクセサリが手軽に手に入る

ヤルの両輪で日本全国への展開を行っております。また、新たに展開している「あこや真珠ガチャ」も現在では香港、シンガポール、インドネシア等、海外からのお問合せも多く日本の「あこや真珠」を世界に：と言う足掛かりにもなっております。

※2) 国連加盟 193 国が 2016 年から 2030 年の 15 年間で達成するために掲げた 17 の目標 ※1) 持続的な成長を可能とする自社特有の事業活動の領域

「ホワイトデーにはあこや真珠を」と言うキャンペーンで、今年の2月15日～3月14日の間、期間限定で東京渋谷のMIYASHITA PARKに設置された世界初の「あこや真珠ベンディングマシン」



として社会の中で、どのように結びつけるかが重要であり、そこから繋がる新しい事業が存在すると考えています。

最後に、弊社の企業理念、「地元の産業を通して顧客貢献を行う」にもあるように、日本の宝石であり、宇和島の宝である「あこや真珠」を世界中の多くの方に身近に感じて頂けるように取り組むと共に、他の地元産業も同様に訴求出来るよう、引き続き取り組んで参りたいと思っております。

宇和海真珠 株式会社

■宇和島市和霊中町2丁目3番20号 TEL.0895-25-7399

宇和海真珠



<https://www.uwakaishinju.co.jp/>

うわしん「南予活性化若手経営塾」とは、宇和島信用金庫において1年間、南予地域の産業活性化をはかるために創業者や2代目、3代目の若手経営者を育成し、企業経営体質の健全化・成長のためのセミナー・個別指導・異業種交流等をおこなっていて、地域内の中小企業の経営レベルを向上させる目的で開講されています。

予士線沿線にも梅雨の季節が訪れ、雨上がりの夜にはホテルが舞う。今回は、わが家で起こったホテルにまつわる、ある出来事を綴ろうと思う。

私たち家族は、宇和島市内の（比較的）街中に住んでいたが、私が小学5年生のある日、父が突然、「これぞわしの理想の暮らしか」と、当時の国民的ドラマ「北の国から」に触発され、あれよあれよと言う間に鬼北町の里山に土地を買い、一軒家を建ててしまった（父は大工だった）。

そんなことは、つゆ知らず…ある日、「明日から引越しの準備や。1週間後には、あつちで住むぞ」と、言うのだ。私は、友達や先生との別れに心の準備をする暇もなかった。

しかも、「引越し準備は自分でやらないさ」だった。

当時暮らしていた家には、どこかで拾ってきたキューピー人形や、めったに買ってもらえなかった宝物のシルバニアファミリーのウサギやモグラたち、関節がくねくね曲がる聖闘士星矢のフィギュアなど、とにかく大切なおもちゃが部屋のアちこちに大切にしまっておいて、それらを絶対になくさないように、おもちゃを守るのに必死で、1週間はあつちという間に過ぎた。

宇和島の小学校最後の日があった。午後、担任の先生が「山下さんは、おうちの都合で転校することになりました。今からみんなで似顔絵を描いてお別れ会をしましょう」と急ぎよ学級会を開いてくれた。しかし、同級生たちは、あまりに突然のお知らせに「え、なんで？なんで？」と、

ざわついていたが、転校の理由が「ただ父が『北の国から』に感化されて、ちょっとだけ山深いところに家を建てたからなんよ」なんて納得いかないでしょう。

週末、いっしょに遊ぶ約束をしていた仲良しとも「またね、元気でね」なんて思いがけない突然のお別れのあいさつを交わした。

熱血先生は、全員が描いた絵を束にして私に手渡し、「引越した先でも元気で、楽しく過ごせよ」と涙ながらにキューツと握手をしてくれた。その大きくて優しい目を今でも覚えている。



そして、転入した鬼北町の小学校では、全員が

ネイビーのブレザーを着る、制服着用の学校だったのだ。

私と弟は、体育館に集まった全校児童の前で、「今日

からこの学校でいっしょに勉強をするお友達です。みなさん、仲良くしましょう」と大々的に紹介された。

全員が制服を着て行儀良く座っている様子に圧倒され、胸にトムとジェリーがプリントされたTシャツと黄色い半ズボン姿の私は、恥ずかしくて仕方なかった。のんきな母は、「あら、制服やったの。ほんなら頼んどくわ。しばらく私服で行くしかないわ」とあつけらかんとしたものだ。しかし、同じクラスの女子た

ちは、転校早々、私服姿で登校している私に容赦なく攻撃を開始した。一人だけみんなと違う格好をしているというだけで、はみ出しもの扱いだった。

「制服の学校に、私服で来るなんて度胸あるやん」と、靴に画鋲が入っていたり、歯ブラシを水たまりに投げられたり、初日早々、事件の連続で、まだ揃っていない教科書を見せてほしかったけれど、隣の席の子にすら声をかけられず、しばらくしてしまった。

そんなことには、ちつとも気付かない父と母は、せっせと新居の片付けをしていたが、しょぼくれた私に追い打ちをかける一言が告げられた。

「うちは集落の一番奥やけん、電気はなんとか間に合ったけど、テレビの電波がまだ届かんそうや。アンテナを付けるまで半年ほど観れんぞ」ガン：あんなに毎週楽しみにしていたドラゴンボールも、あぶない刑事も観れないなんて…。信じられない！ おもちゃの次くらいにテレビの存在は大きかった…。

学校での、しょぼくれた気持ちを取り除いてくれる唯一の手段だったテレビが映らない…もう絶望的だった。なんて所に引越してきたんだ。ラジオもねえ、テレビもねえ、おらこんな家いやだ。

大人たちは、片付けに追われ、弟は無邪気におもちゃと遊んでいるけれど、私はテレビが観たかった。そうしたら、翌日、学校で「ねーねードラゴンボール見た？ 悟空やつぱり強いよね」とか、クラスの子と話すきっかけになるというのに。ああ、それもかなわない。私は、

急に怒りのようなものがこみ上げてきて「もっなんで引越したんかしたんよ。お父さんやお母さんのせいで最悪や。テレビが映らんなんて聞いてない！」と不満を爆発させた。

父は、「そのくらい我慢せよ」と強く言い放って、話はそれで終わり。それからしばらくは学校に通ったが、テレビの話題にも口を挟めず、クラスメイトと話すきっかけもなく、私の制服が届いても状況は変わらなかった。

集団登校で一緒になる学年違いの子や下校が同じ時間の男子とは、普通に話もしていたけれど、教室の移動や休み時間に仲良くできる女子がいないと、結構さみしいもんだ。「引越してもいいことなんて何にもないやん」と…。

1週間ほどして「もう学校行かん」と母に告げた。行きたくない理由を言わなかったので急ぎよ、家に先生たちがやってきた。そしてようやく、うちの両親は私が学校でうまくいっていないことを知ったのである。おらかな母は、「行きたくないまで行かなくてもいいわい」と言ってくれたが、父は、特に何も言わなかった。ただ、クラスでは担任の先生がこのことをクラスのみんなに打ち明け、なんとか改善しようと頑張ってくれた。

女子たちが、こぞって私を相手にしなかったことを知っていた男子も口を割って話し始めた。そのおかげで、私がさみしい思いをしていたことが、みんなに分かったようで、これまで話をしたことがなかった同級生たちが、ぼつぼつと話しかけてくれるようになった。



予土線特集やりります。

ある晩、父は何を思ったのか、私と弟を家から連れ出した。田んぼに囲まれた家のまわりには、ホタルが飛んでいたのだ。「きれいやろう」と、父は田舎に引越してきたことを全肯定するように言った。

たしかに、宇和島では見ることもない、たくさんホタルが飛び回っていて、手のひらで、明るく光を放つホタルを見て、ちよつとワクワクした。

そんな私を見た父は、「元々ホタルは、こんな姿やうて、一生のほとんどを水や土の中で、じつと過ごして夏の夜に成虫になり、体を発光させて子孫を残すんだ」と、大そう立派な説明をしてくれた。すると父は、何かを思いついたようで、「こんなにおるんやけん、ホタルを集めて家の中で見てみるか」と言い出し、虫かごにどんどんホタルを集め始めた。私たちも楽しくなってホタルを捕まえた。そして、部屋の電気を全部消し、そこ



へ虫かごいっぱいホタルを放った。それはそれは神秘的で、まるで宇宙の中にも居るかのような初めて見る光景だった。真つ暗闇に、ボワンボワンと柔らかな小さな光が規則的に光った。「お父さん、すごいね、ホタルいっぱい。田舎に引越してきて良かったね」と、私は思わずそんなことを口にしていた。

「そつやろう、そつやろう」と父は嬉しそうに笑顔を浮かべ、私たちは満足して寝た。

「うわあ、なにこれ」、朝起きて家の中を見渡すと、大量のホタルがゴマ粒のように床に落ちて死に絶えていた。ホタルが舞うのは、わずか数日のみ。はかない命を私たち親子のせいで一晩で使い果たしてしまったのだ。

ホタルからしたら、とんだ災難だ。捕らえられ、子孫を残せずに散っていった命。もう光を放つことなく動かなくなってしまうホタルを見つめながら、なんてことをしてしまったんだと悔やむばかりだった。

理想の田舎暮らしも、現実はいわめて不誠実で、私たちはホタルの大量虐殺をやってしまったのだ。その惨状は、今でも目に焼き付いていて、毎年この季節になると脳裏をよぎる。

今思うと、この頃の私は「何にも良いことないや」と、くよくよしては、まるで世界の終わりのように、しょぼくれていたが、あのホタルたちと比べれば、な



んてことはなかった。命を取られたわけでもなく、私は日々生きていた。

やがて、テレビも映るようになり、近所の子どもたちと一緒にやつを食べながら、あぶない刑事やスケバン刑事、もちろんドラゴンボールも観れるようになった。また、カエルやセミを捕まえてはその造形美を上げしげと観察し、生き物の魅力にドキドキ、ワクワクするようにもなった。そして、だんだんと寂しい気持ちは薄れていって、中学生にあがる頃には、気の合う友達もできていた。

日が暮れると、予土線沿線の水田には夜汽車が映り込み、ガタンガタンと通り過ぎていく。そして、その闇の中を小さな光が舞っている。あるがままのホタルを愛でただけで十分に美しい。

その光の数が昔と比べ少なくなったのは、あの時の私たちのせいかも知れない、と密かに反省するのだ。

どうかホタルよ、許しておくれ、と…。



おしらせ

「旅鉄 BOOKS42 駅スタンプの世界 押せば押すほど“どつぽ”にはまる」
坪内政美(著) 山と溪谷社(刊)
1,980円(税込み)



山下 文子 やました あやこ

宇和島市出身、鬼北町育ち。
予土線沿線は、県をまたぐも「ザ・生活圏」。
鉄道を始め、乗り物は何でも大好き。
座右の銘は「その角を曲がれば、旅」
(※永六輔氏のうけうり)。
「四万十の鉄道 予土線」のホームページで
コラムを担当。



<http://yodosen-green.com/>



<https://twitter.com/yodosen>



<https://www.facebook.com/yodosen/>

協力：高知県予土線利用促進対策協議会



坪内 政美 つぼうち まさみ

スーツ姿で撮影するという奇妙なこだわりをもつ鉄道カメラマン・ロケコーディネータ。各種鉄道雑誌などを執筆する傍ら、テレビ・ラジオにも多数出演。町おこし列車「どつぽ列車」を主宰し、駅スタンプを製作・寄贈する活動を行っている。高知県予土線利用促進対策協議会アドバイザー。
ブログ：「坪内政美公式ブログII」

【主な活動・執筆など】

鉄道全路線シリーズ(朝日新聞出版) 旅と鉄道・鉄道キング(山と溪谷社) サライ・ビーバル・本の窓(小学館) 琴電殺人事件(西村京太郎・新潮社) JTB時刻表・ノジュール・青春18きっぷの旅・観光列車でいこう・るるぶシリーズ 主に四国関連・瀬戸内海離島(JTBパブリッシング) 四国旅マガジン GajA(SPC出版) ネコ駅長ばす PHOTO BOOK(エイ出版) 鉄道珍百景(天夢人) ほか、ラジオまどな「どつぽの鉄道見聞録」(NHK松山放送局・17:05～月一度程度出演) 多数。

え かわ さき 江川崎駅 日本で“2 番目”に暑い駅？

駅データー

■所在地 高知県四万十市西土佐江川崎 ■開業日 1953(昭和28)年3月26日 ■旅客ホーム数…1面2線・無人駅



江川崎駅から半家駅の途中にある第一吉野川橋梁を渡る「しまんトロッコ」

2013年8月12日に最高気温41度を記録したことから「日本一暑い駅」として看板まで取り付けていたが、惜しくも2020年に静岡県浜松市が41.1度を記録したことから(2018年には埼玉県熊谷市も41.1度を記録)、2位になってしまった。

夏の暑さが厳しい地域であることには変わりがないが、実は駅周辺には桜の木があり、3月下旬から4月上旬に見頃を迎える。散り際になると、駅に桜吹雪が舞い、地面は花びらの絨毯になることも。

鉄道ファンにとっては、列車の停車時間が長いので、予土線を走るユニークな車両たちを激写できるかつこの駅であり、長距離の旅人には貴重なトイレ休憩になる。

1974年までは、宇和島線の終着駅であった。



四万十川でアユ釣りをする様子が描かれている駅スタンプも。(駅の窓口ではバスのキップ売りが委託されている)

(写真左) 江川崎駅舎
(写真中央)「日本一暑い駅」の看板(写真右)中央に傾いている「らぶらぶベンチ」



道の駅よって西土佐 高知県四万十市西土佐江川崎 2410-3 ☎0880-52-1398

■営業時間／7時30分～18時 ■定休日／※3月～11月は無休12月～2月は火曜定休(火曜祝日の場合は営業)

江川崎駅から歩いて10分ほどの場所にあり、鮎の塩焼きやウナギなど四万十川の恵みを味わえる。食堂やカフェ、弁当などもあり、西土佐グルメ満載なので、運行本数が少ない予土線の待ち時間を過ごすのには、めちゃめちゃ最適！

2階のフリースペースには、畳3枚分もある予土線のジオラマも設置されていて、沿線風景をじっくり堪能してほしい。



予土線三駅語り

5

西ヶ方く江川崎く半家



文：山下 文子



写真：坪内 政美

にし が ほう

西ヶ方駅 高知県最西端の駅

駅データー

■所在地 高知県四万十市西土佐西ヶ方馬引田 ■開業日 1953(昭和28)年3月26日 ■旅客ホーム数…1面1線・無人駅

愛媛県と高知県の県境に近く高知県では最西端の場所にある。無人駅だがロジ風の立派なトイレがある。廃校になった西ヶ方小学校の校舎も近くにあり、ここでは地元有志が四万十産の杉でBBQ用の板(フランク)を作っていたり、地域の活動の場所として活用されている。また、駅から愛媛方面に600メートルほど行くと、「めがね橋」と呼ばれるアーチ状の石橋があり、広見川のそばを走る列車をカメラに収めることができる。

駅舎と見間違ふほど立派な地元材を利用したトイレ



めがね橋を渡る「しまんトロッコ」



春には県境の橋から、山桜と列車が撮影できる

くずかわ

葛川沈下橋 愛媛県北宇和郡松野町吉野4032

高知県と愛媛県のちょうど県境近くにある沈下橋。(沈下橋とは、欄干のない橋で増水時に沈没するように設計されている。)四万十川の支流である広見川にかかっており、長さ48.1メートル、幅2.5メートルのコンクリート製。1950(昭和25)年に完成され、地域の生活道だった。近年では台風によって橋桁が一部流されたままであったが、今は修復されており、車窓からも見る事ができる。



は げ

半家駅 歴史ドラマとネーミングが強烈

駅データー

■所在地 高知県四万十市西土佐半家 ■開業日 1974(昭和49)年3月1日 ■旅客ホーム数…1面1線・無人駅



行けそうで行けないトイレ。ホームからたどり着けない不思議な場所にある



人気の半家駅看板

「半家」は、もともと「平家」の隠里だったことが由来と言われている。また「はげ」と読むことから「増毛」とかいて「ましけ」と呼ぶ北海道の駅(現在は廃駅)までを結んだユニークなツアーも行われた。

珍読駅として知られていることから、トロッコ運行日には、車両から身を乗り出して駅看板を撮影する人もあり、国民的アニメ「サザエさん」でおなじみの波平さんが訪れたことが、あるとか、ないとか…。

ながおい

長生沈下橋 高知県四万十市西土佐長生

全長120メートルの沈下橋で、江川崎駅と半家駅の間、途中の車窓から見る事ができる。軽トラックがすいすいと橋を渡り、夏場になると地元の子どもたちがその橋から川に飛び込んだり、広い河原にはキャンプやカヌーを楽しむ人も見られる。





「予土のみじかな物語」 空回り

田丸 雅智

予土線の旅に出たのは、近ごろ空回り気味の自分を見つめ直したかったからだ。

列車が急に止まったのは、その途中、窓峠に向かう険しい坂道をのぼっているときだった。焦ってきよろきよろしていると、近くの人がおれに声をかけてくれた。

「今日みたいな雨の日には、ときどき車輪が滑って空回りすることがあるんですよ。ですが、ご安心を。運転手さんが砂をまいてくれますからね」

砂というのは車輪とレールを噛み合わせるためにまくものなのだと、その人は言った。昔は手でまいていたので重労働だったが、いまはスィッチひとつで常備している砂をまけるという。

そのとき、その人が不意に言った。

「もしかすると、あなたにも砂が必要なのかもしれませんよ」

「えっ？」

次の瞬間、目を疑った。その人の姿が消えていたのだ。そして、いつの間にかおれは手に砂を握っていた。

今の人は……？

この砂は……？

直後に列車が動きだし、ゴリゴリと砂の碎ける音がしはじめた。それだけではない。同じ音は不思議と自分の中から聞こえてきていた。

いつしか、おれはこう思う。

旅のおかげか、砂のおかげかは分からない。

いずれにしても。

空回りしていた自分の何かもどうやらうまく噛み合って、いま力強くしっかり回りはじめたらしい。



◆田丸雅智（たまる まさと）プロフィール

1987年、愛媛県生まれ。

東京大学工学部、同大学院工学系研究科卒。

現代ショートショートの名手として執筆活動に加え、松山市が主催する「坊っちゃん文学賞」の審査員を務める。

また、全国各地で創作講座を開催するなど幅広く活動している。

著書に『海色の壠』『おとぎカンパニー』『マタビ町は猫びより』など多数。

公式サイト：<http://masatomotamaru.com/>

節安の花とび踊り せつやす きほくちよう 鬼北町

大本敬久

愛媛県歴史文化博物館 専門学芸員



撮影／北濱一男

「節安の花とび踊り」は、鬼北町の最も奥地でもある節安地区の薬師堂にて、二月第二日曜日に行われる太刀踊りである。太刀踊りは、愛媛県西予市以南の南予地方と高知県西部に広く見られ、太刀や鎌を採物として、攻めてくる武士や村を守る農民を演じる郷土芸能として知られ、南予では「花取踊り」（愛南町）、「花踊り」（宇和島市三間町）、「花とび踊り」（鬼北町）と称される。「庭拂」、「餌つけ」、「二つ切」、「みつくなみ」等の踊りがあり、揃いの茶色の法被に五色の襷を締め、太刀を持って踊る。

地元の伝説によれば、戦国時代に高貴な身分の落人が、難産で苦しんでいたところ、地元の農民が花とび踊りを奉納して安産祈願をした。女兒を出産したもの、産後、母子ともに亡くなってしまい、手厚く葬られたといわれ、その頃より踊りが受け継がれているとされている。安産祈願の御利益があるとして、近年ではSNS上でも話題になり、遠く離れた松山市周辺からも祈願に訪れる者もいる。

節安は、昭和三八年（一九六三）の「三八豪雪」で積雪が一・五メートルを

※1) 神楽や神事で手に持つ道具のこと

越えて交通は長期間遮断され、主幹の生業である林業に大きな被害が出た。同年夏の記録的な集中豪雨で追い打ちをかけられ、昭和四八年（一九七三）には下鍵山に集団離村することとなった。その後、昭和五三年（一九七八）に「節安花とび踊り保存会」が結成され、現在は日吉公民館の父野川分館が、公民館事業の一環として保存会の活動に協力している。平成一四年（二〇〇二）に富母里小学校が閉校する以前は、小学生が積極的に踊り手として参加し、その経験のある成人が現在も多く参加している。住民は集団移転したものの、年に一度の帰省、同窓会のような結集の場ともなっている。



おおもと たかひさ

1971年、八幡浜市生まれ
 専門は民俗学・日本文化論
 著書に『民俗の知恵』（創風社出版）等

新型コロナウイルス感染症のワクチン接種 ②

新型コロナウイルスのワクチン接種が始まりました。現在接種が行われているファイザー社のワクチンは3週間の間隔を開けて2回の接種を行います。2回目の接種終了後、2週間経過した時点で予防接種が完了となります。1回だけでも効果はありますが、その効果は従来型で6割、インド型で4割、英国型や南ア型で2割と高くありません。しかし、2回目終了後には、いずれも9割以上の効果を認めており、2回の接種が必要となります。

*医学用語では痛みのことを『疼痛（とうつう）』と表します。

気になる副反応ですが、接種部位の疼痛（とうつう）を9割に認めます。37.5℃以上の発熱が1回目接種後は3.3%、2回目接種後は3.5%、6%と2回目の方が多く発生しています。頭痛や倦怠感（けんたいかん）は1回目が2割、2回目で5〜6割に認められます。副反応は高齢者に少なく、男性より女性の方が多い傾向があります。症状のほとんどは接種翌日に生じ、3日目には改善しています。

症状の改善には解熱剤（アセトアミノフェン）の服用で効果があるため、接種時にお配りしています。症状のある方は使ってください。重篤なアレルギー反応ですが、ファイザー社ワクチンの場合、100万回当たり4.7例が報告されています。※1）

単純計算で宇和島市の接種対象者（16歳以上の人口…64,659人）が全員2回接種した場合、重篤なアレルギー反応を起こす人は0.6人となります。少ない数ですがゼロではないため、接種場所では対処の薬品を用意し、接種後15分程度の安静と観察をさせていただいています。

5月末までの日本の接種完了は2.4%にとどまっています。今後、接種が進めばどうなっていくのでしょうか。参考になるのが世界で最も接種が進んでいるイスラエルのデータです。4月の時点で16歳以上の72.1%が接種完了しています。報告※2）によると、ワクチン※3）は、発症に9.5%、感染に9.1%、入院に9.7%、2%、重症化に9.7%、5%、（COVID-19）関連死に対して96.7%有効であり、パンデミックに歯止めをかけているとしています。

イスラエルでの新規感染者は1月には1日1万人を超えていましたが、5月末には1日20人前後と激減し、死者はゼロとなっています。そのため屋外でのマスク着用義務やレストランや商店での人数制限が解除されるなどの、行動規制の緩和が行われました。

マスク、手洗い、ソーシャルディスタン

スなどはほぼ定着し、それなりの効果を上げています。しかしこれらは「守り」であり、ウイルスが無くならない限り今後も継続する必要があります。以前の生活に戻るためにはウイルスを撲滅させる「攻め」が必要です。これがワクチンです。

現在、ワクチン接種が行われていますが、十分には進んでおらず混乱も見られます。

これは従来のワクチンと違って極めてデリケートな管理を必要とすること、何より対象者が多いことにより、現場でも試行錯誤しながら対処しています。集団接種も始まり、状況は徐々に改善しつつあります。引き続きご協力のほど、よろしくお願い致します。



沖内科クリニック
副院長 沖 良隆

※1) <https://jamanetwork.com/journals/jama/fullarticle/2776557>

※2) Impact and effectiveness of mRNA BNT162b2 vaccine against SARS-CoV-2 infections and COVID-19 cases, hospitalisations, and deaths following a nationwide vaccination campaign in Israel: an observational study using national surveillance data

※3) 日本と同じ、ファイザー社製です。

腸活中です！

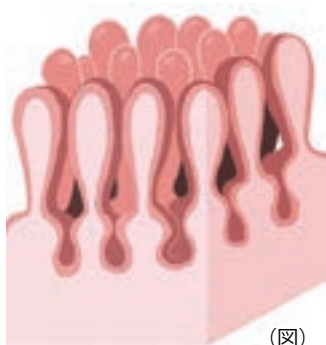
■腸の役割

「腸の重要性を実感したのは管理栄養士になってからです。腸は食べ物から摂取した栄養素の多くを消化・吸収する臓器です。3大栄養素である炭水化物、タンパク質、脂質もそれぞれが消化を受けて炭水化物はブドウ糖になり、タンパク質はアミノ酸になり、脂質は脂肪酸とグリセロールになって多くは小腸から吸収されます。

腸には200種類、100兆個以上もの腸内細菌が住みついています。それには「善玉菌」「悪玉菌」「日和見菌」があり、お花畑にたとえられて、腸内フローラと呼ばれています。善玉菌の代表が乳酸菌で腸内の環境を整え、病原菌の侵入を防ぎます。善玉菌を増やすには食生活が大切です。善玉菌のえさになる食物繊維やオリゴ糖をしっかり摂りましょう。野菜、海藻、精製されていない穀類などです。肉食が多い場合や、偏食がちだと悪玉菌が増加します。日和見菌とは環境によって善玉菌に味方したり、悪玉菌に味方したりするものです。人間の世界にもこんな人いますよね。周りを見て優勢な方につくタイプです。いやな奴ですが、敵にまわさないようにしたいものです。悪玉菌が増加すると日和見菌は悪玉菌の手助けをするようになるのです。

■図は何でしょう？

この、ヒダヒダは何に見えますか？これは「絨毛（じゅうもう）」と呼ばれる腸の表面のヒダです。絨毛のおかげで腸の表面積は大きくなっています。人間の体ってうまくできていますね。生きていくためには栄養素の吸収が必須ですから、表面積を大きくしてしっかりと栄養素が摂取できるようにしているのです。腸の絨毛を広げると、テニスコート一面分にも匹敵するといわれています。



(図)

■腸のもう一つの役割

専門用語ですが、「バクテリアトランスロケーション」とは腸管粘膜をすりぬけて細菌が臓器に移動して感染を引き起こすことです。絶食などで腸管を使用しなくなるとバリア機能が低下して「バクテリアトランスロケー

ション」が起こってしまい感染しやすくなり、いわゆる免疫力が低下することとなります。免疫とは外敵から身を守り、病気を防ぐ感染からの防御システムです。腸には免疫システムの70%が存在しています。

■私の腸活

○乳酸菌を積極的に摂取するため乳酸菌飲料を飲んでいました。

乳酸菌はNK細胞（ナチュラルキラー細胞）を活性化させます。NK細胞はウイルスをやっつける働きがあります。

○善玉菌が増加するよう毎食野菜を食べます。

野菜にはビタミンC、カリウム、食物繊維が豊富に含まれています。特に緑黄色野菜に含まれるβカロテンは体内でビタミンAに変わり粘膜を強化してウイルス等をブロックすることが期待されます。緑黄色野菜とは人参、ほうれん草、小松菜、トマト、いんげん、かぼちゃなどの濃い野菜をさし、βカロテンが多く含まれています。ビタミンA・D・E・Kは脂溶性（油に溶ける）なので油いためなどにすると吸収が良くなります。揚げ物と一緒に食べても大丈夫です。

○ヨーグルトや納豆、味噌などの発酵食品を積極的に食べています。

発酵食品は腸内の善玉菌を増やす植物性乳酸菌が豊富です。

○バランスの取れた食生活を意識しています。

1日3食の食事で毎食理想的な食事を摂ることは難しいものです。夕飯の時に朝昼に食べたものを思い出してみましよう。足りないものを補うような食材を用いて献立を考えましよう。

■最後に

腸には免疫システムの70%が存在していると書きましたが、残りの30%は脳（こころ）の問題です。

ストレスの多い社会でも楽しく生きていく方法を見つけることも大切ですね。



広島修道大学
健康科学部 健康栄養学科
教授 藤井 文子
宇和島市出身
きものを楽しむ会々長

お気楽 俳句

世は猫ブームですが、俳句の世界でも猫はひっぱりだこ。猫の恋の季節である春の季語として「猫の恋」「恋猫」はたまた「孕猫」など。冬は「かじけ猫」「竈猫」「炬燵猫」など、沢山の季語になっています。また、「猫」だけでは季語になりません。

以下の句の色文字が季語です。それぞれの句の季節感を味わってみてください。
(小野更紗)

白猫のまばたきのごと**梅**ひらく 金子 敦

月光を帯び**恋猫**の放電す 夏井いつき

払曉の出社命令**猫**の恋 ※払曉 明けがたのこと 理酔

やがてまた草に隠れる**孕猫** 門田なぎさ

子猫抱きかたむき歩く女の子 宇多喜代子

猫の子の爪が胸からはなれない 都築まとも

花のもと猫あて日だまりの出来て 岡田一実

猫にだけ内緒の話**レース**編む 神楽坂リンダ

海暮れてゆく**籐椅子**を猫が占め 渡部州麻子

飼ひ猫と言へぬでもなく**芒原** すずきはら 鈴木牛後

一匹を見送るために焼く**秋刀魚** 河野しんじゅ

猫の毛の銀のさざなみ冬に入る 杉山久子

火のような猫かしゆかしゆと**落葉道** 江口小春

冬の井戸猫集まりて解散す 朗善千津

薄目あけ人嫌ひなり**炬燵猫** 松本たかし



絵：律川エレキ
1966年宇和島市生まれ
奈良市在住
2000年頃より俳句新聞
や俳句マガジン等に挿
絵を描く。映像作家

おすすめの本

かなしきデブ猫ちゃん

早見 和真／著
かのうかりん／絵

愛媛新聞社 ¥1,980

この作品は、2018年に愛媛新聞で特別連載された創作童話が書籍化され、2019年に絵本になりました。

松山（道後）に暮らす家ネコ「マル」が、新しくやってきた子猫に嫉妬して家出し、愛媛各地を東へ西へ大冒険に出ます。マルの目を通して愛媛の素晴らしさを伝えることが大きなテーマです。かのうさんの愛情溢れる優しい絵が旅の臨場感をもちあげています。

松山NHK開局80年特別企画でテレビアニメ化されることが決まり、今年12月から放送開始予定です。また、3月には集英社から文庫版も出しました。



集英社 ¥770



協力：岩崎書店 宇和島市錦町4-16 TEL. 0895-22-0528

■アトリエ堀端絵画教室 (べにばら画廊)

宇和島市本町追手 2-8-6 TEL. 0895-22-1104 <https://benibara.webhop.info/> コメント: 吉田 淳治



作品名:『千日紅』(油彩)
作者:中川 智仁(大人クラス)

写真をコピーしたような生気を失った絵。
中川さんの絵はその対極にある。
モチーフを見つめ、湧き出るものを待つ。
筆先に込めたピュアなダイナミズム。



作品名:『ABCDSOS』(クレパス、水彩)
作者:藤堂 穂澄(子供クラス)

外国の文字がカラフル絵になった。
知る喜びあふれる、ほずみ君。
SOS だって覚えてし、次は何かな?
アルファベットが自由自在に動き出す。



作品名:『うれしいこどもの日』(クレパス、水彩)
作者:下村 毅里人(子供クラス)

絵を描くキックボクサー、きりと君。
宮本武蔵と同じ文武両道だ。
青空に舞う、鯉のぼり、兜(かぶと)、張り子の虎。
何だか仲良く戦っているみたい。

■アトリエぱれっと <https://art-palette.wixsite.com/mysite>

宇和島市伊吹町字イカリ石甲 1083-1 2F TEL.090-7784-4703 yuka@art-palette.com コメント: 清家由佳



作品名:『夜桜(ネット画像参考)』
作者:徳田 明美(水彩)

いつも前向きに作品制作に向き合い
絵を描く姿が素敵な徳田さん、どん
どん表現の幅が広がっています。
そして、優しい色調で人柄が溢れて
います。



作品名:『キリマンジャロコーヒー』
作者:伊藤 由希乃(パッケージデザイン)

将来デザインの仕事に就きたいと、頑張っ
ている由希乃ちゃん。いつも生き生きとデ
ザインをしている姿が印象的です。今回は
コーヒーパッケージデザインに挑戦!とて
も感じのいいデザインになりましたね。



作品名:『神威岬の空
(秋元隆良画像参考)』
作者:尾崎 章二(油絵)

海の透明感と水平線、龍雲、の美しさが
表現出来ている。見ても気持ちの良
い作品です。いつも作品に心を込めて描
く姿も素晴らしいと思っています。



(100周年シンボルマーク)

宇和島信用金庫は
2022年5月3日で
創立100周年
を迎えます。

おかげさまで100周年 ～この街が好き、この街と未来を拓く～

(100周年キャッチコピー)



「つなぐ」は、こちらでどうぞ。

- 宇和島市役所ロビー ● 津島支所 ● 吉田支所 ● 三間支所 ● 市立中央図書館 ● 吉田図書館 ● 中央図書館津島分館
- 生涯学習センター ● パフィオうわじま ● 宇和島市立病院ロビー ● 市立伊達博物館 ● 宇和島市立歴史資料館
- きさいや広場(観光物産協会) ● 道の駅みま ● 畦地梅太郎記念美術館 ● 宇和島商工会議所 ● 盛運汽船 ● 福 DON
- ハイウェイレストラン宇和島 ● 和日輔 ● 南楽園 ● かどや(駅前本店・弁天町店・味奈味) ● 岩崎書店 ● はまゆう薬局
- パール薬局 ● ひまわり薬局 ● 小野商店(津島) ● 木屋旅館 ● あすも(津島) ● べにばら画廊 ● アトリエばれっと
- JR宇和島駅 ● JR松山駅 ● 香川・愛媛せとうち旬彩館(東京) ● 宇和島信用金庫各支店 その他

※宇和島市の「宇和島クラブ」に協賛業者として登録しています。

「つなぐ」の発行は、新春号(1月)、春号(4月)、夏号(7月)、秋号(10月)です(※予告なく変更になる場合もございます)

うわしん



<https://www.shinkin.co.jp/uwajima/>



宇和島信用金庫

— この街が好き、この街と未来を拓く —